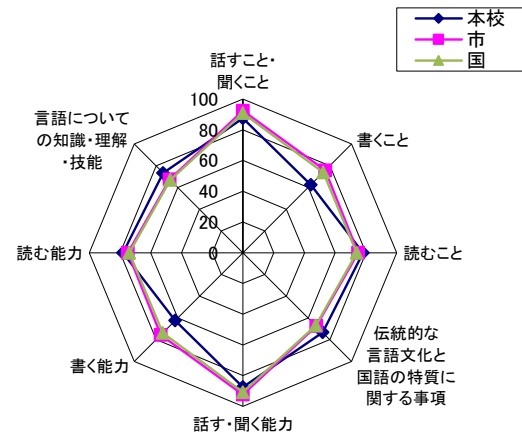


宇都宮市立瑞穂野北小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

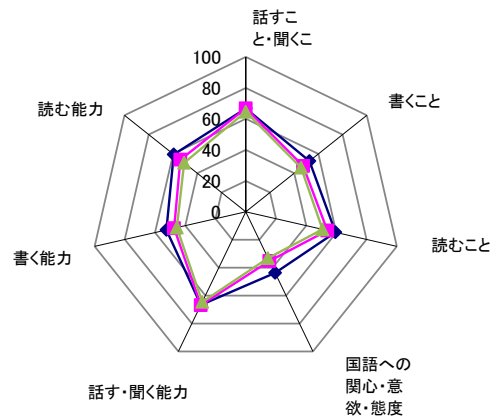
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	87.5	92.4	90.8
	書くこと	62.5	75.7	73.8
	読むこと	78.1	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	87.5	92.4	90.8
	書く能力	62.5	75.7	73.8
	読む能力	78.1	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	73.4	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	66.8	64.6
	書くこと	52.5	47.4	45.6
	読むこと	59.4	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	43.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.7	66.8	64.6
	書く能力	52.5	47.4	45.6
	読む能力	59.4	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
		今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aでは全国平均に比べて低く、国語Bではやや高い。 ○司会の役割についての正答率はやや高い。 ●話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることについて課題が見られる。	●話し合いの目的と意図を明確にして、共通点や相違点を整理しながら話し合いを進めるよう指導する。 ●国語の時間に限らず、他の学習においても主体的に話したり、聞いたり、話し合ったりするために、体験したこと、関心のあることの中から話題を決めたり、得た知識や情報を関係づけて話し合ったりできるよう、指導の工夫をする。
書くこと	平均正答率は、国語Aでは全国平均に比べて低く、国語Bでは高い。 ○説明文の目的や意図にに応じて、文章全体の構成の効果を考える設問の正答率が高い。 ●物語の構成を読み、工夫の説明として適切なものを選ぶ設問の正答率が低い。	●物語を書く際は、事実の羅列になりがちであるが、時系列に沿った描写、比喩、心情を表す風景描写など様々あることを、物語文を学習しながら確認していく。
読むこと	平均正答率は、国語ABともに全国平均を上回っている。 ○登場人物の心情について、情景描写を基に捉える設問の正答率が高い。	●物語文では、叙述に即して読むことができるようにするため、地の文や会話文から丁寧に人物の心情を読み取る指導の工夫を今後も行っていく。 ●説明文では、論述の構成や筆者の意図を重視した読み取りを行っていく。 ●司書教諭と連携を図りながら、日常の読書指導を充実させていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○敬語の使い方や、学習した漢字を文の中で正しく使うことはよくできている。 ●文の中における主語と述語との関係に注意して、文を正しく書く設問の正答率は低い。	●新出漢字を学習する時には、音読みや訓読み、部首、様々な熟語等を確認するようにし、既習漢字も繰り返し復習ができるよう計画的に取り組むようにする。 ●文の組み立てをしっかりと理解させるとともに、作文における主語と述語を正しく使った明確な文の書き方を指導する。